大阪・船場、くすりの町の落語会

道修町（どしょうまち）たなみん寄席

第2回「大阪人につける薬」

正統派からちょっとアヤしいものまで、大阪人と「薬」のつながりを、落語を楽しみながらひも解きます。

落語

桂春之輔
「まめだ」

桂米紫
「イモリの黒焼き」

講演

髙島幸次
（大阪大学招聘教授・
大阪天満宮文化研究所）
「千と千尋の黒焼き」

11/23（祝・木）

6:00PM～

入場料 1,000円（資料代込み）

定員 200名（要申込・先着順）

田辺三菱製薬

大阪・船場、くすりの町の落語会

道修町（どしょうまち）たなみん寄席

「たなみん」って？

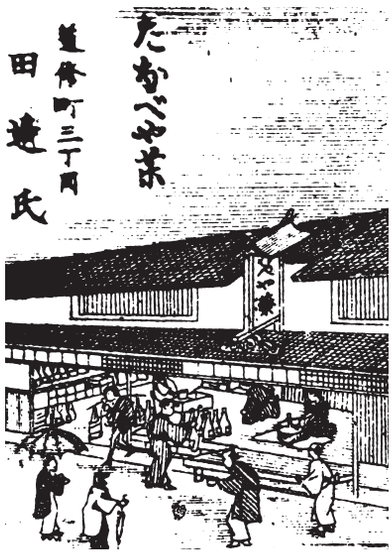
ふわふわで真っ白な毛に覆われた、大きな青い手を持つ妖精。その手でどんな相手でもぎゅっと受け止め、包み込む。
ハグされたものはその心地よさにひとたび眠りにつき、起きたときには病が治っている、こともあるとか。田辺三菱製薬のキャラクターとして活躍中！

落語に登場する あんな薬やこんな秘薬。大阪の人たちと「薬」のつながりとは？

道修町の少彦名神社は、薬の神さまとして知られています。毎年11月22日・23日の神農祭も大にぎわい。今回のたなみん寄席では、それにちなんで、大阪の人たちがどのように薬と関わってきたのかを、落語を交えてご紹介します。

くすりの町・道修町の歴史もさることながら、上方落語にはさまざまな薬が登場します。中にはちょっとアヤしげなものも…。はたして落語に出てくるうっかり者に、つける薬はあるのでしょうか。

背景写真について



「浪花諸商独案内（なにわしょしょうひとりあんない）」

明治12年（1879）に発行された、大阪の商いや有名な店を紹介した本の中に「たなべや」が描かれています。店先には瓶のようなものがあり、配達に出かけるのか荷物を肩に掛けた人物も。十一代田邊屋五兵衛が、現在本社がある道修町3丁目に店を構えたのは、安政2年（1855）のこと。店舗の大きさは表間口が4間半（約9m）、奥行は20間1尺（約37m）あり、当時としては立派な店構えでした。

第2回「大阪人につける薬」

桂春之輔「まめだ」 桂米紫「イモリの黒焼き」 髙島幸次（講演）「千と千尋の黒焼き」

日時 2017年**11月23日**（祝・木）　6:00PM～8:00PM頃（受付開始5:00PM～）

会場 田辺三菱製薬株式会社

入場料 1,000円（資料代込み）　**定員 200名**（要申込・先着順）※定員に達し次第締め切ります。

道修町の歴史がよくわかる田辺三菱製薬史料館を見学していただけます。

ハガキ、FAX、もしくはインターネットの申し込みフォームからお申し込みください。
ハガキ、FAXでお申し込みの方は、お名前・ご住所・電話番号・参加人数（応募1通につき4名まで）を明記の上、下記までお送りください。
なお、複数名でご参加希望の場合は、代表者の方の必要事項を明記してください。
〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルヂング602号　「道修町たなみん寄席」受付係　FAX.06-6484-9678

https://www.tanamin-yose.net

◎ご参加までの流れ

①お申し込み
インターネット、ハガキ、FAXで受け付けています。

→

②受講票発送
10月20日前後から発送を開始します。

→

③当日お支払い
当日、会場で入場料をお支払いください。

お申し込み先着順に整理番号を発行し、当日はその番号順にご入場いただきます。整理番号は受講票に記載していますので、必ずご持参ください。

※受付開始時間より前にお越しいただいても、早く入場できるわけではありません。

お問い合わせ ☎06-6484-9677
（道修町たなみん寄席事務局・株式会社140B内）

主催／田辺三菱製薬株式会社　企画・運営／株式会社140B